

Q57 これからの時代はパソコンを使う必要がますます高まってくると思われますが，高等学校で新設される教科「情報」では，どのような授業が行われるのでしょうか？

A 教科「情報」のねらいは，単にコンピュータを使う技能を覚えるだけではなく，誤った情報や不要な情報に惑わされることなく，必要な情報を取捨選択し，自らの情報を発信できる「情報活用能力」の育成を図ることです。

教科「情報」には三つの科目があります

平成15年度に高等学校に入学する生徒から，新しく「情報」という教科を学習することになります。

教科「情報」は，「情報A」「情報B」「情報C」の三つの科目から構成され，卒業までにいずれか1科目以上を学習しなければなりません。どの科目を何学年で学習するかは各学校によって異なります。

また，標準単位数は2単位ですので，週当たりにすれば2時間分学習することになります。

三つの科目は，扱う内容や程度が科目によって違います。生徒のコンピュータに関する学習経験や興味・関心はかなり多様です。このため，A，B，Cはこの順に学習していく科目ではなく，生徒の実態に応じて選択して学習する科目としています。

情報A

「情報活用の実践力」に重点を置き，高校生の生活レベルに視点を置いて日常生活でコンピュータやインターネットを使いこなせるよう，インターネットやよく使われているソフトウェアを活用した学習活動を行います。

情報B

「情報の科学的な理解」に重点を置き，コンピュータの機能や仕組み，内部で実際にどのようにデータが処理されているかを科学的に理解し，コンピュータを問題解決に役立てる学習活動を行います。

情報 C

「情報社会に参画する態度」に重点を置き，コンピュータ内部の仕組みよりもネットワーク社会そのものについてより深く理解できるよう，インターネット等を使ったコミュニケーションや調査活動などの学習活動を行います。

いずれの科目も情報社会に必要なルールやマナーを育てることを重視しています。

他の教科と大きく違う点は，コンピュータやインターネットなどを活用した実習が中心となっている点です。科目によって総授業時数の2分の1又は3分の1以上の時間が実習に充てられます。

もっと専門的に勉強したい人のために専門教科も準備します

すべての高校生が学習する教科「情報」(普通教科「情報」)のほかに，将来，情報関連の仕事に従事したいという人のために，専門教科として「情報」も設けました。専門教科「情報」は「情報産業と社会」「アルゴリズム」「コンピュータデザイン」など，11科目から構成されます。工業科や商業科などのように，専門教科「情報」を中心に学ぶ情報科が高等学校に設置されることとなります。

コンピュータも計画的に整備します

各学校にコンピュータ教室を設け，授業の中で，小学校では2人に1台，中学校，高等学校，盲・聾・養護学校では1人に1台のコンピュータを利用できるよう，計画的な整備を進めています。

【教育用コンピュータの整備計画】

